



【完全版】iOS・Mac デバイス管理必携

Apple Business Manager 徹底解剖！

PC・スマホ・タブレットの一元管理をクラウドで実現
iOS・iPadOS の管理は Apple Business Manager を活用し、より高度な管理を実現！

IT review 顧客評価No.1※

使いやすい管理コンソール

充実の PC 管理

操作ログ・セキュリティ

PC 管理に必要な機能を網羅

Apple・Google の認定プログラム対応

充実の「モバイル管理」



Apple Business Manager 概要

「Apple Business Manager」は MDM ツールと組み合わせて利用する Apple のプログラム

MDM ツール

デバイス情報（ハード・アプリ）の取得

位置情報の取得

リモートロック・ワイプ

セキュリティポリシーの設定

メッセージ・アンケートの通知

+

Apple のプログラム

Apple Business Manager (ABM)

- ✓ MDM と組み合わせて利用する必要がある
- ✓ MDM ツール単体で実現できない、
より高度な管理を実現
- ✓ 利用は無償だが、事前準備や利用条件があり、
注意が必要

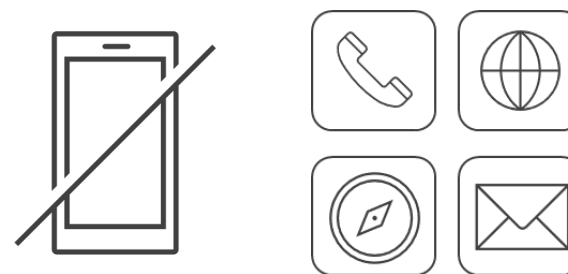
MDM の基本となる紛失・盗難対策だけでなく
より高度なデバイス管理を求めて ABM の利用ニーズが高まっている

iOS 管理の基本



ABM を組み合わせた方が
より高度なデバイス管理が可能

より高度な管理とは何か？



- キットティング作業の効率化
- Apple ID の設定に依存しないアプリ管理
- デバイス制限項目が充実

Apple Business Manager = 自動デバイス登録（DEP） + アプリの一括配信（VPP）

Apple Business Manager とは

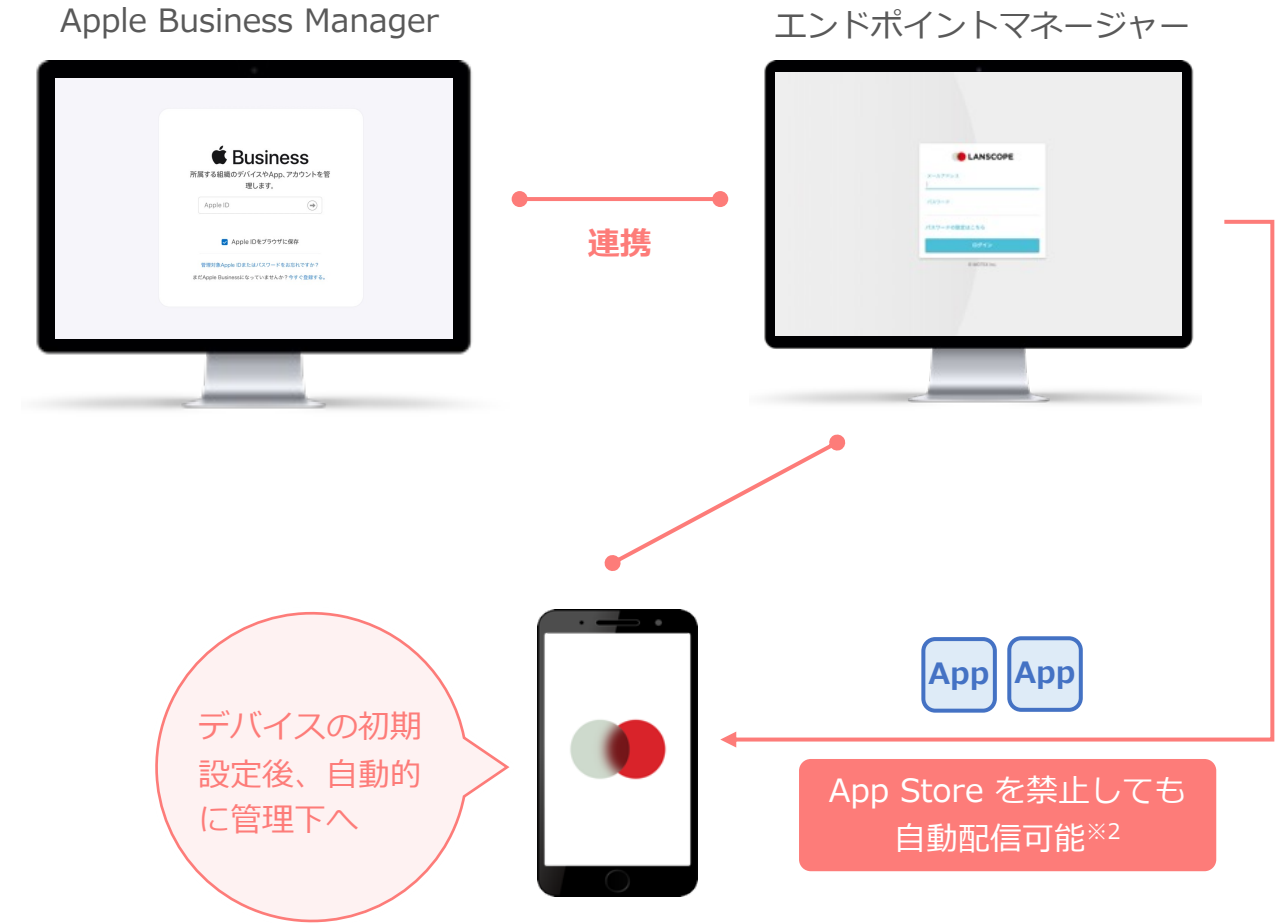
ABM はデバイスを効率的にエンドポイントマネージャーの管理下に置き、アプリの配信やデバイスの利用制御などを実現できる Apple 社が提供するプログラムです。

自動デバイス登録（旧称 DEP）

MDM 構成プロファイルのインストールと監視モードへの適用を自動化します。ABM とエンドポイントマネージャーを連携し、デバイスの初期設定を効率化します。

アプリの一括配信（旧称 VPP）※1

Apple ID の設定有無に依存せず、アプリの一括配信が可能。App Store の利用を禁止し、許可したアプリのみ利用を認めるなどの設定が可能です。



※1 オプション機能です。

※2 デバイスを監視モードに設定する必要があります。

参考) iOS デバイス管理に必要なプログラム

必要なプログラム	対象OS	概要	配信・インストール方法	
MDM 構成プロファイル ^{*1*2} 【必須】 	iOS / macOS	エンドポイントマネージャーを利用する場合、デバイス側にインストールが必須です。	DEP 未利用	デバイスのアクティベーション後に、別途手動でインストール。
			DEP 利用	デバイスのアクティベーション（初期設定）後に自動インストール。
LANSCOPE Client（アプリ） ^{*3} 【任意】 	iOS ^{*4}	iOS デバイスで、次の機能を利用する場合にインストールが必要です。 ・位置情報取得機能 ・メッセージ・アンケート機能 ・デバイスの Jailbreak 検知機能 ・デバイス利用ログ取得機能 ・アプリカタログ 配信はエンドポイントマネージャーから行います。	アプリ配信（VPP 未利用）	デバイスに Apple ID を設定し、エンドポイントマネージャー クラウド版から配信
			VPP 利用	管理コンソールから配信。MDM 構成プロファイルインストールのタイミングで自動配信も可能。 デバイスを監視モードに設定することでサイレントインストールが可能。 ※Apple ID の設定有無は問わない。

*1 MDM 構成プロファイルのインストールが必要な他社製品との同居は、Apple の仕様上できません。

*2 バックアップデータの復元時における挙動については、Apple 社の仕様依存するため、弊社から明確な回答ができない場合があります。

*3 LANSCOPE Client のインストール後、デバイス上で LANSCOPE Client を一度タップし、起動する必要があります。尚、アプリ配信・VPP を利用せず、デバイスから App Store にアクセスし、手動で LANSCOPE Client をインストールする場合、LANSCOPE Client をサーバーに登録するための「登録用 Clip」をエンドポイントマネージャーからデバイスに配信し、登録作業を行う必要があります。

*4 Mac デバイスの場合、MDM 構成プロファイルをインストール後、LANSCOPE Client をはじめとしたアプリや関連するプログラムが自動インストールされます。

自動デバイス登録（DEP）・アプリ一括配信（VPP）の利用メリット

アプリ一括配信（VPP）は macOS 未対応です。

【自動デバイス登録】利用メリット

メリット		iOS	macOS	説明
設定アシスタントのスキップ		○	○	設定アシスタント（初期設定）でスキップする項目を選択できます。
MDM 構成プロファイルの自動インストール		○	○	デバイスの初期設定の過程で、MDM 構成プロファイルが自動でインストールされます。
MDM 構成プロファイルの削除禁止		○	○	MDM 構成プロファイルの削除を禁止できます。
デバイスを監視モードに自動適用		○	—	デバイスを監視モードに自動適用できます。
監視モード適用時のメリット	紛失モードの利用	○	—	ロック解除の禁止、位置情報の強制取得など、より強力な紛失対策を実行できます。
	VPP アプリのサイレントインストール	○	—	VPP アプリとして配信したアプリをデバイスにサイレントインストールできます。
	監視モード専用の構成プロファイル適用	○	—	監視モードデバイス専用の特定プロファイルを適用できます。
アカウントの自動作成		—	○	管理者アカウントの自動作成、ユーザーアカウントの設定内容を指定できます。

Mac デバイスの監視モードについて

iOS を監視モードに適用する場合、DEP を利用してデバイスをエンドポイントマネージャーの管理下に置く必要があります。一方、macOS 11（BigSur）以降の場合は **DEP の利用可否に拘らず、デバイスを管理下に置くことで監視モードが適用**されます（macOS 11未満で監視モードを適用する場合は、DEP の利用が必要です）。

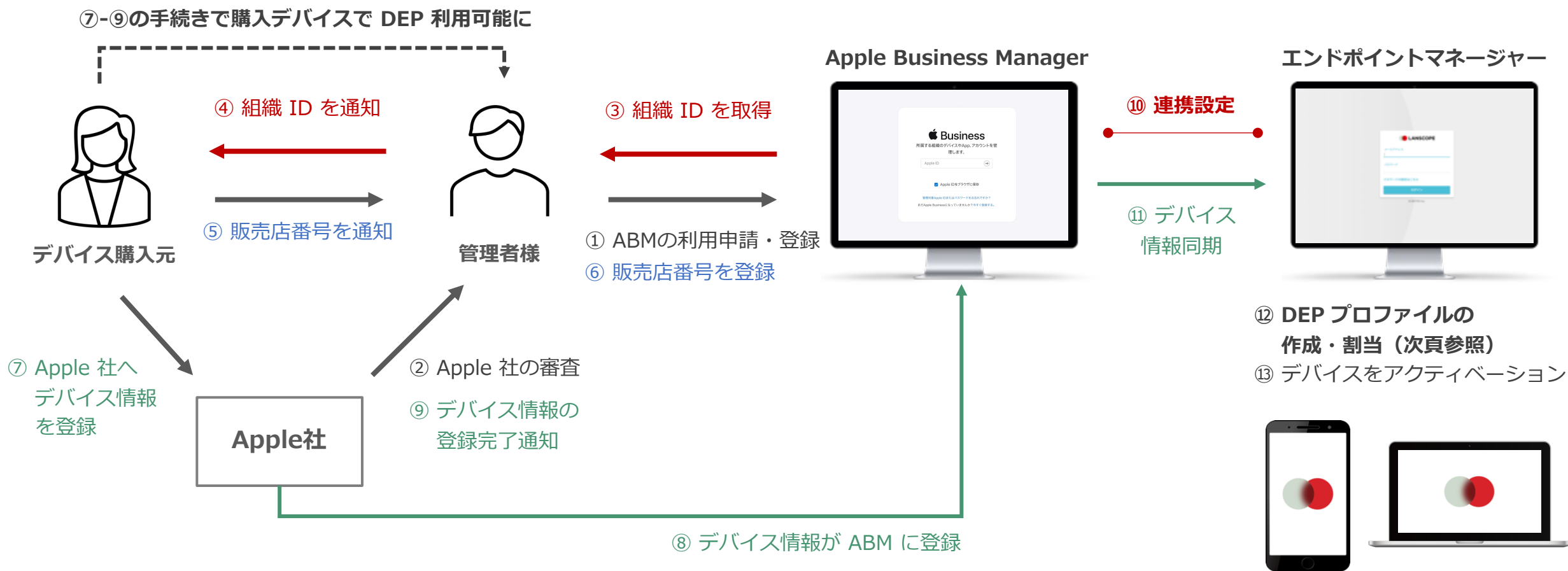


Apple から直接もしくは Apple 正規取扱店から購入した iOS・Mac デバイスのみ自動デバイス登録を利用できます。利用可否はデバイス購入元にお問い合わせください。
また、DEP を利用する場合、デバイスの初期設定（アクティベーション）が必要です。そのため、利用中のデバイスの場合は一度初期化し、再アクティベーションが必要です。

【自動デバイス登録】利用時の全体像

DEP を利用する場合、デバイス購入前に、デバイス購入元に DEP の利用申請が必要です。申請方法は購入元にお問い合わせください。

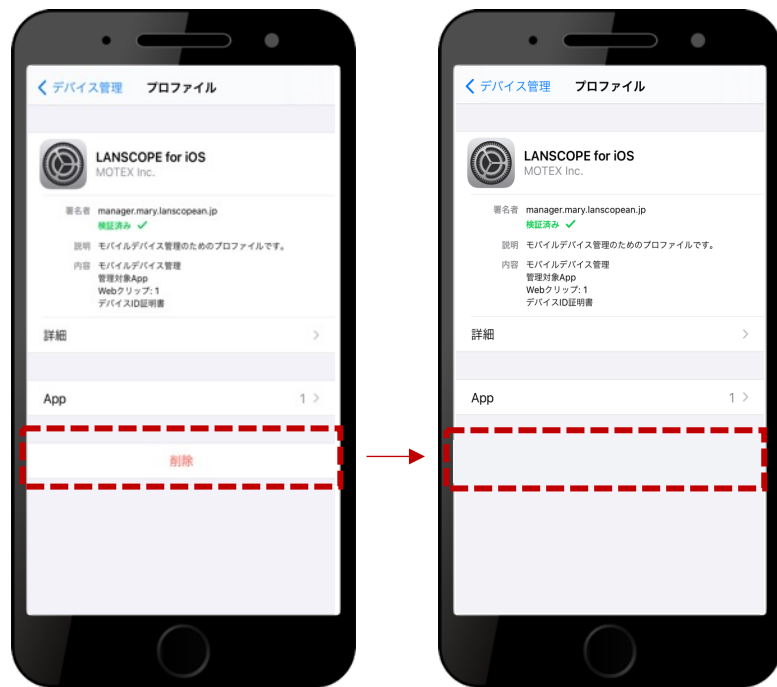
DEP を利用するためには、Apple Business Manager (ABM) サイトから登録を行う必要があります。登録後、Apple 社審査完了後に、「組織 ID」が払い出されますので、デバイス購入元（Apple 正規代理店）に「組織 ID」を通知する必要があります。尚、デバイス購入の申請時に「組織 ID」が必要な場合もあります。下記図はイメージです。Apple 社の仕様変更やデバイス購入元によって流れが異なる場合があります。



自動デバイス登録を利用することで、デバイスを監視モードに適用

監視モードに適用することで、より幅広いデバイス管理を実現します。

● MDM 構成プロファイルの削除禁止



- 自動デバイス登録 未利用 -

- 自動デバイス登録 利用 -

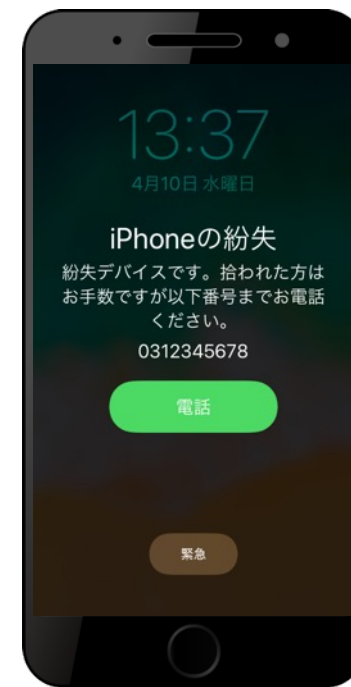
● 監視モードデバイス専用の特定プロファイルの適用



監視モード（監視対象のみ）で適用できるプロファイルの例

- ・ App Store の利用禁止
- ・ AirDrop の利用禁止
- ・ Wi-Fi ペイロードによってインストールされた Wi-Fi ネットワークのみに接続する
- ・ ソフトウェア・アップデートの延期（最大90日）

● 紛失モードの利用



- ・ 画面上へのメッセージ表示
- ・ ロック解除を禁止
- ・ 位置情報の強制取得

【自動デバイス登録】 利用する場合／しない場合の比較

	iOS		macOS	
	DEP 利用 = 監視モード設定 ※1	DEP 未利用	DEP 利用 ※1	DEP 未利用
MDM 構成プロファイルインストール方法	自動インストール	手動インストール	自動インストール	手動インストール
MDM 構成プロファイルの削除禁止	○	×	○	×
デバイス・インストールアプリ情報の取得	○	○	○	○
パスコード（パスワード）ポリシーの設定	○	○	○	○
リモートロック・ワイプ	○	○	○	○
位置情報を取得する	○	○	×	×
紛失モード	○	○	×	×
アプリの配信	○	○	○ ※2	○ ※2
VPP アプリの配信	○ サイレントインストール	○ ダイアログ表示	×	×
構成プロファイル配信	○	△ ※3	○	○
アカウントの設定	×	×	○	×

※1 iOS デバイスの場合、DEP を利用することでデバイスが監視モードに設定されます。一方、Mac デバイス（macOS 11 [BigSur]）の場合、DEP の利用可否に拘らず、エンドポイントマネージャの管理下にデバイスを置くことで、監視モードに設定されます。

※2 Mac デバイスのアプリ配信は「.pkg」ファイルを利用したアプリのみ対応しています。macOS の App Store アプリの配信は対応していません。

※3 iOS デバイスの場合、デバイスが監視モードに設定していないと配信できない構成プロファイルがあります。

エンドポイントマネージャー から業務に必要なアプリを一括配信。

ABM のアプリ一括配信を利用することで得られるメリットも。

アプリ配信の種類/利用シーン比較	利用シーン	管理コンソールから配信実行後のデバイス側の動作	
App Storeアプリ配信 (基本機能)	●デバイスにApple IDを設定し、利用者にパスワードを教えている。 ●アップデートは利用者が App Store から行う。	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので [インストール] をタップする ② Apple IDのパスワードを入力する ③ インストールが実行される	
アプリの一括配信 (旧称 VPP) デバイスベース方式配信 (オプション機能)	●デバイスにApple IDを設定していない、もしくは設定しているが利用者にパスワードを教えていない。 ●App Store を禁止した状態でアプリを配信したい。 ●アップデートは管理者が LANSCOPE から行う	監視モード 適用	サイレントでインストールされる
		監視モード 未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので [インストール] をタップする ② インストールが実行される
In-Houseアプリ配信 (基本機能)	●自社開発した（ストアに掲載されていない）アプリを配信する。 ●アップデートは管理者が LANSCOPE から行う。	監視モード 適用	サイレントでインストールされる
		監視モード 未適用	① アプリのインストールを促すダイアログが表示されるので [インストール] をタップする ② インストールが実行される

Apple ID の設定・サインイン有無に依存せず、アプリの配信が可能



① ABM でアプリを入手、
ライセンスが反映

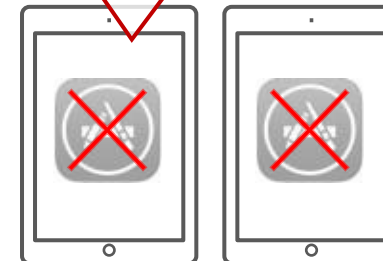
アプリ名	バージョン	最新バージョン	保有ライセンス数	割り当てライセンス数	実行台数	未完了台数	メモ	アプリケーションID
LINE WORKS	13.5.4	13.5.4	20%	12%	8台	2台		com.officeapps-workspace
Microsoft Outlook	4.35.1	4.47.0	20%	10%	10台	2台		com.microsoft.Office-Outlook
Google マップ・業務案内 6...	15.3.5	15.3.5	20%	19%	1台	0台		com.google.Maps
業務案内	5.24.2	5.24.2	20%	12%	8台	0台		jp.co.primetec.Horikawa

解説 デバイス側での操作について

インストール要求のダイアログ表示後に許可すると、インストールが完了。**Apple IDのパスワード入力無しでインストールが可能。**
※デバイスを監視モードに設定するとダイアログは表示されません。



App Storeを禁止して
いても配信可能！※



② VPPアプリを
デバイスに配信

③ インストール ※ デバイスを監視モードに設定する必要があります。

【アプリの一括配信】アプリカタログ機能

業務に必須のアプリは管理者 Push で強制インストール、任意のアプリは利用者が必要に応じて、アプリカタログからインストールするなど、運用に合わせて使い分けが可能です。

管理者による Push 配信

管理者による Push 配信機能は、管理者のタイミングで配信。アプリのアップデートは、管理者が LANSCOPE から行う必要があります。



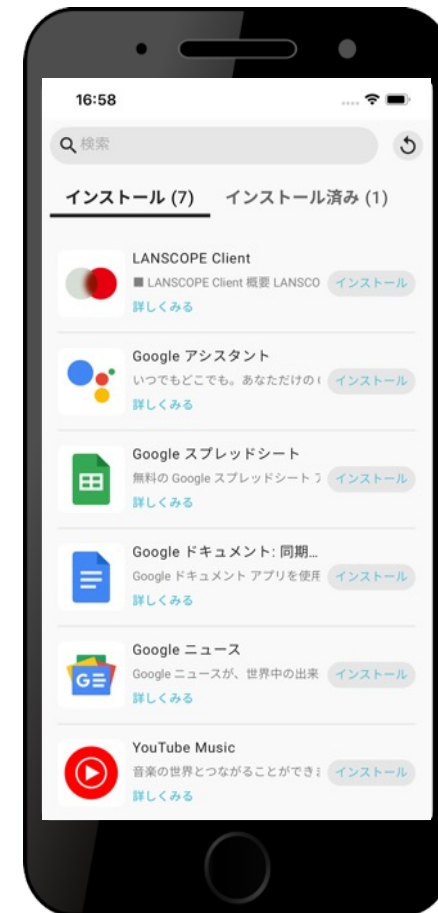
アプリカタログを利用

利用者が自身のタイミングでアプリをインストールできます。アプリのアップデートも利用者が行えるので、管理者の負担軽減にもなります。



アプリケーションの自動配信機能

業務に必要なアプリは、デバイスが LANSCOPE の管理下に入ったタイミング（MDM 構成プロファイルインストールのタイミング）で、自動配信が可能です。管理者が都度、アプリを配信する必要はありません。また管理下に入ったタイミングで、アプリカタログの公開も可能です。



管理ツールの切り替え / 新規に管理ツールを導入する場合の注意点

お客様の管理状況や今後行いたいことによっては、デバイスの初期化が必要です

初期化が必要あるケース

現在 MDM で管理しているデバイスの場合

- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用している
- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用していないが、エンドポイントマネージャー クラウド版では利用したい

現在 MDM で管理していないデバイスの場合

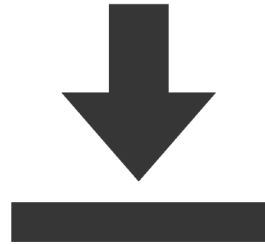
- すでに利用中のデバイスで、エンドポイントマネージャー クラウド版で自動デバイス登録を利用したい

初期化が必要ないケース

- 既存 MDM で自動デバイス登録を利用しておらず、エンドポイントマネージャー クラウド版でも利用しない
- MDM の管理下でないデバイスで、エンドポイントマネージャー クラウド版で自動デバイス登録をしない

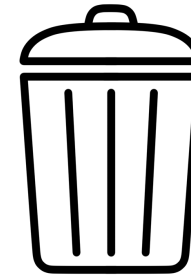
ABM や AE とともにデバイスのアクティベーション過程で、
管理に必要なエージェントがインストールされるため

エージェントのインストール



アクティベーション（初期設定）の
過程でインストールされる
利用中のデバイスの場合は初期化が必要

エージェントのアンインストール



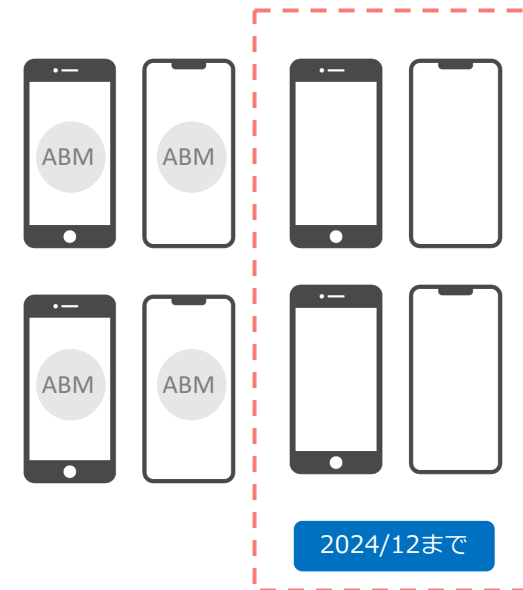
アンインストールするためには
デバイスの初期化が必要

自動デバイス登録は、Apple 正規取扱店から所定の手続きを経て購入したデバイスのみ適用可能
そのため、機種変更のタイミングで自動デバイス登録を利用することがオススメ

スマホ によって機種変更
タイミングがバラバラ



機種変更後のスマホから
自動デバイス登録を適用



次の機種変更タイミングに移行

60日間無料で体験できます！

体験版を利用したお客様の7割が製品版をご導入いただいています



Apple Business Manager との連携設定も含め、製品版へのデータ引き継ぎが可能です！

LANSCOPE クラウド版の体験版は 60日間たっぷり利用できます。十分に機能を検証していただき、ご検討ください。

Apple Business Manager との連携設定を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。

また体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメールで問い合わせが可能。マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。



製品に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社 06-6308-8980
東京本部 03-3455-1811
名古屋支店 052-253-7346
九州営業所 092-419-2390
E-mail sales@motex.co.jp

ご導入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター 0120-968995（携帯・PHSからは06-6308-8981）
お電話受付時間 9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）
Email お問い合わせ support@motex.co.jp

- ・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。
- ・製品の仕様・サービスの内容は予告なく変更させていただく場合があります。
- ・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。